



近況往来

ピアニスト・美術家

向井山朋子さん

黄昏時の光が、ガラス窓だけ
でなく、壁の隙間からも差し込
む。5月9日に立った舞台は、
演奏会場としては異色の場だっ
た。

福岡県うきは市の「杉工場」。
ショールームとして使われる古

い木造倉庫にピアノを置いた。

入り口では、同県大木町の染色

家大籠千春さんが染めた160

以上の布が回廊を形作る。演奏後

に振る舞ったコーヒーマシンは、福岡

市の「珈琲美美」の森光充子さ

んによるもの。空間や時間の演

コラボで描く Love Song

出に、地元の女性たちを起用し
たのは「日本では女性の地位が
低い。変えるために、実行して
いくことは私の仕事のひとつ」と
自任するからだ。

「Love Song」と題
したプログラムは、フランスの
作曲家ラモールの「新クラヴサ
ン組曲集」よりや、バッハ「ト
ッカータ」などバロック音楽を
中心に組み立てた。

「Loveは言い廃れた言葉
かもしれない。でもコロナ禍で
文化が破壊的な状況となり、戦
争も始まる中、人や地域を愛お
しむことを考える人が増えてい
るのではと思った」

木材に埋め尽くされた空間
で、旋律が相聞歌となって観客
に寄り添う。共鳴するピアノも
木の楽器であると、改めて印象
づけた。

和歌山県出身。1991年に
オランダの国際カウデアムス演
奏家コンクールで優勝して以
来、回国を拠点とする。東京の
原美術館の閉館に合わせ、俳優
森山未來さんと短編映画を製
作するなど、活動の場はいわゆる
「ホール」にとどまらない。

「ホールに行かない人の手を、
私は引っ張ってきたい。他の分
野とコラボレーションすると、
人も交ざる。ごった煮が好き」

うきは市での公演は2017
年以降3回目。市内でアーティ
スト・イン・レジデンスに取り
組む馬場亮子さんとの出会いから
始まった。「1回やるのは簡
単で、どう続けるかが大切。今
回、ぐっと深い展開ができたの
で、次はもっと大きなものがで
きそう」と未来図を描く。

(大矢和世)